

高速バスの立ち位置と課題に関する研究

——なぜ高速バスは選ばれるのか、これからも選ばれる続けるためには何が必要なのか——

本研究の目的は、高速バスが鉄道、航空機、自家用車と比較してなぜ選ばれ続けているのかを明らかにし、今後も選ばれ続けるためには何が必要なのかを検討することである。高速バスは低価格で全国を結ぶ交通手段である一方、時間がかかるなどといった面もある。高速バスの利点である安さ、利便性、直行ルート、地方都市間や都市郊外の移動で他交通機関ではカバーできないニーズに対応できるといったことから選ばれているという仮説を立てた。

研究方法として、国土交通省や既存研究の文献調査を行うとともに、東京、名古屋、長野を対象に立地構造や利用環境、利用者の声に関する比較分析を行った。また、バス事業者への聞き取り調査を通じて、現場の課題を整理した。その結果、高速バスは鉄道や航空機が対応しきれない地域、時間帯をカバーする補完的交通として重要な役割を果たしており、特に地方都市間や夜行便において高い需要が確認された。夜行便は移動時間を就寝時間に充てることが出来るため、時間効率と宿泊費節約の両面で優位性を持ち、高速バスが選ばれる重要な要因となっている。また航空機や新幹線のラウンジが上級利用者向けの付加価値サービスとして位置づけられているのに対し、高速バスのラウンジは一般利用者の待機環境を支える基盤的機能が強いといえる。一方で、案内不足やターミナルの未整備が利用の障壁になっていることも事実である。

以上より、仮説は証明されたとはいえ、今後は聞き取り調査で課題や、他交通機関との連携を進めることで、高速バスの利便性と持続性を高めることが重要である。